

＋シルバーロード＋

かつて江戸時代、銀の道あるいは銀山街道と呼ばれた古道があった。幕府の天領であった石見銀山で採掘・精錬された銀を瀬戸内の尾道まで運んだ道である。銀は嚴重に梱包され馬の背か馬車に積まれて大森を出発、南下して江ノ川の小原に出て九日市の宿で一泊、早朝宿を出立、そこから険しい中国山地の赤名峠と仏ヶ峠を越えて(今の R54 号はトンネルで通る)布野宿で休憩し夜遅く三次に到着して荷を下ろした。すなわち大森から三次まで二日で歩いたのである。三次から山陽側はまず吉舎で昼休憩、そこから甲山、御調を経て尾道へのメインコースと上下、府中を経て笠岡に至るサブルートに分かれる。尾道または笠岡からは船で大坂まで運ばれた。尾道ルートは甲山宿で 3 日目の夜を過ごす。そして大森を出て尾道まで 130~40km の道を 3 泊 4 日で運搬したのである。今では考えられない強行軍である。宿場で馬を替えながらトンネルもないくねくねした急坂の多い中国山地をどのように突破したのであろうか。こうしてみると昔の日本人は現代人とまったく異なる人種にしか思えない。ともかく宿泊場所では鍵をかけた蔵に嚴重に保管され、道中は幕府の役人が付き添って終始監視してた。かの伊能忠敬も雪の降る中を歩いてこの銀山街道を測量していたという。

石見銀山の発見は博多の商人・神屋寿貞が日本海航行中、偶然光を発する山を見て銀山を探しあてたという(1526 年)。以来銀山は毛利と尼子の権利争いに発展、毛利氏が勝利したが大坂の陣後、天下を取った徳川が天領にしたのである。毛利時代までは銀は温泉津から海路で博多や山口へ運送されていた。江戸時代の銀山街道は今は所々しか残っていないが、各所に宿場の痕跡や松並木、一里塚など昔の面影が見られる。ただし石見銀山は世界遺産に指定されてから人気の観光地となり周辺の整備がすすんでいる。徳川幕府の禁教後、キリシタンが特に東北地方の鉱山に隠れ住んだ話が多いのでひょっとして石見銀山や銀山街道にそれらの痕跡や情報がないか少し調べてみたが今のところ皆無だった。もちろん専門的に調査しているわけでないので何とも言えないが、幕府直轄の銀山として監視が厳しくキリシタンの潜入も難しかった可能性はある。ただ一つ三次の尾関山山麓にキリシタン灯籠が建っているとのことを知り、とりあえず三次に行ってみることにした。三次には大阪から高速バスが出ていて日帰りも可能だが、それでは面白くないので山陰本線江津から三次、いわゆる三江線に乗ることにした。理由は来春廃線になるためである。この線は銀山街道には沿っていないが、江ノ川に沿って三次まで 110km、3 時間半かかる。三次までの直通は一日 2 本しかなく、途中乗り継いでも 3 本しかない。赤字路線の運命とはいえ沿線の住民にとっては残念なことであろう。私は学生時代から旧国鉄の 70%以上は乗っているが三江線はまだ一度も乗ったことがないので廃線と聞くと是非とも乗って見たかった。そこで西広島に

も殉教記念碑があると聞いていたので、先にそれを見て新山口から益田で山陰本線に乗り換え、江津に行き三江線で三次に出ることにした。

西広島のキリシタン殉教記念碑

10月2日新大阪から新幹線で広島へ、在来線に乗り換えて西広島で下車した。広島駅も原爆記念公園や宮島へ行くのだろうか外人観光客が多い。西広島の殉教記念碑は駅から数百m戻った狭い線路沿いの路端にあった。その前にある狭いトンネルの向こ



う側にノートルダム学園が見える。この殉教碑は1984年建立の新しいもので、このあたりに広島藩の刑場があったからとのことである。広島藩主の福島正則もキリシタンには比較的友好的で布教を黙認、城下にはキリシタンも多かったというが1612年の幕府の禁教令で多くのキリシタンが捉えられ処刑されたとの記録が残されているそうである。実は三原に長崎で処刑された日本26聖人の一人、聖トーマス小崎(当時16歳)の慰霊碑があるが今回は時間的都合で訪問をカットした。

駅に戻り鈍行列車で新山口に向かったが、途中の駅で後から来る貨物列車の追越し待ちをしたのには驚いた。今や貨物列車の方が特急並みで各駅停車を追い越してゆく。新山口からは特急で津和野の手前の徳佐駅で下車、実は駅から8kmの山里に湯治専用の柚木慈生温泉がある。炭酸ガスとアルカリ性炭酸塩、さらにリチウムイオンなどを豊富に含んでおり、しもそれらの濃度が極めて高いのが特徴で白濁した湯である。そのためか各種病気によく効くと評判が高く、医学的にもお墨つきの純湯治宿で2泊以上しないと泊めてくれない(ただし日帰り入浴はOK)。ちょっとした食堂や八百屋も併設しているので素泊まりもできるが2食付なら6千円、ただし宿泊客は飲酒禁止である。リピータが多く数泊する人が多いらしいが私は最低の2泊。朝から何回も入浴したせいか湯あたりしてかえってしんどかった。周囲は山と田んぼがひろがる里山ながら近くに人家や小学校、小さな寺に神社もあり、ぶらふら散歩するにもよい。熊はいないがマムシが多いから気をつけろと宿泊客が言ってくれた。2泊の短い湯治を終え徳佐駅まで宿の車で送ってもらう(電話で予約すれば迎えにも来てくれる)。徳佐はリンゴが名産でリンゴ狩りに来る客が多い。特急では一つ先が津和野だが3年前に行ったので今回は素通りして益田に直行。益田には雪舟ゆかりの寺が二つある(万福寺と医光寺)。雪舟が作庭した庭園は山口市にもあり訪れる人は多いが、益田の雪舟庭園は知名度が低く訪れる人は少ないが知る人ぞ知る名園である。私は二度目の訪問で久しぶ



医光寺の雪舟庭園と板戸絵

万福寺の雪舟庭園と襖絵

りに訪ねて他に見学者のいない庭園を書院の縁側に座って一人静かに眺めることができた。益田駅に戻り鈍行で江津に向かった。ホームの端にたった一両の三次行きが待っていた。初日に続いて今日も昼食抜きになった。ワンマンカーは江ノ川に沿うように山裾を縫って走る。木の枝がバシバごとにホームの駅名看板を撮っていた若い女性に声をかけると愛知県から一人で来たと言う。やはり廃線になるので乗りに来た、明日は初めて乗るオロチ線で島根から鳥取まで行くと言っていた。オロチ線とは備後落合と宍道を結ぶ木次線である。中国山脈をループで越える紅葉が美しい線として人気が高い。途中の雲南市は古事記に出てくる素戔鳴尊のオロチ退治の民話の里でもある。今日でも見られる「たたら製鉄」が传承されていて、製鉄で巨万の富を稼いだ豪商の邸宅や玉鋼から日本刀や刃物を打っている刀匠の工房など見ごたえの多い路線である。湯村温泉や海潮温泉といった名湯もある。せっかく来たのにそれらを見ないで素通りするのはもったいないよと彼女に言うと、知らなかった次回また来ると言いながら車内を駆け回って写真を撮っていた。前に座っていたおばさんに、どこへ行くの?と聞くと江津の病院の帰りという。この線には病院はなく江津か浜田まで行かないと無い、一日仕事や。じゃ廃線になると困るねと言うと、そうだね廃線後バスが走るらしいがバス停がどこにできるんかそれが問題やとおばさんは言う。こんな山の中では救急車も来そうにない。年寄ばかりが取り残されていく。こんな話を交わしていると国会の議論など地方の人たちにはなんの意味もないように思えてくる。とっぷり日も暮れて三次に着いた。車で迎えに来てくれた宿の女将に早速三次・尾関山のキリシタン遺跡のことを尋ねると、確か看板を見たように思うがどこだったかはっきりした場所は知らないという。仕方ない、タクシーに乗って探すしかない于是就寝した。翌朝、朝食のとき女将が分かったよという。なんでも朝早く車でそれらしい場所を探しに行ってくれて見つかったので、あとで連れて行ってあげると言う。人吉に続いてまたもやマリヤ様がほほえんでくださったのかもと感謝する。

三次キリシタン遺跡 ? 宿の女将の軽自動車に乗って、尾関山公園の山裾を流れる江ノ川の土手の下で降ろしてもらった。遺跡はそこから土手の上を 200m ほど歩いた崖(尾関山の南麓)の所にあった。女将は朝ここまで見に来たそうで、三次におりながらこんなところがあるとは気付かなかった、勉強になったと言っていた。遺跡といっても織部式灯籠と石仏らしいものがあるだけで、教育委員会が建てた説明板にはキリシタン灯籠と明確に記しているが、石材などの説明のみで灯籠の由来やキリシタンと関連つける根拠などは何も説明されていない。2~3 の Net 情報を見ても、近くの比熊山にあった寺にあったものでここに移されたとか、桃山時代京都で作られた灯籠で禁教により川に捨てられ



たが後に発見されて拾い上げたものなど諸説ある。三次浅野家 5 万石の城下町にキリシタンがいた可能性は否定しないが、この灯籠がキリシタンゆかりのものと断定するのはいささか理由薄弱としか思えない。なぜなら織部灯籠は各地にあり本来キリシタンとは関係なく茶庭でよくみえます。ちなみに我が家にもあります。

三次浅野家と赤穂義士 浅野内匠頭の正室は三次浅野家の娘であり、三次と赤穂は縁が深い。大石内蔵助も三次を訪れていたようである。尾関山のすぐ隣に浅野家の菩提寺の鳳源寺がある。境内に内蔵助手植えの枝垂れ桜がある。また新しいお堂(義士堂)に四十七士のミニチュアが並んでいる。境内の奥の藩主の墓地の一角には正室・阿久利姫(略泉院)の遺髪塔が建つ。本堂の裏には立派な庭園があるが、内蔵助もこの庭を眺めて瞑想したかもしれない。お寺を辞し、町の中を通る古道 銀街道(銀の道)をぶらぶら歩いてみた。ほとんど宿場の面影はなくなっている。道幅が拡張され立派な石畳になり、ところどころ虫窓や格子窓のある古い家もあるがすっかり近代的な通りになっている。対馬から日本海を通る台風の影響か雨と風が急に強くなってきたのでとりあえずバスセンターに行き大阪行き高速バスのチケットを買う。昼食後もう少し三次人形の町をぶらつくつもりだったが、本日は台風のため午後一番のバスが最終となりその後のバスは運行停止とのこと、昼前にバスセンターに来てよかった。バスセンターの食堂でラーメンを食べバスに乗ったころには横殴りの風雨になった。しかし津山盆地に入ったころには風雨は去り青空も見えてきた。バスは少しおくれただけで無事千里桃山台に到着、そこで下車し旅を終えた。

鳳源寺 義士堂と大石桜



鳳源寺 略泉院遺髪塔

鳳源寺庭園

左は三次の旧銀の道

比較的古い家並の残っている所を選び撮りました

三次は鵜飼でもよく知られるが、三次人形が昔から有名である。人形博物館もある。